



# ほけんだより



第71号

平成18年10月

子育て施設課

## 【百日咳】

### どんな病気？

- ★ 百日咳菌という細菌がのど等に感染し、発症します。
- ★ 百日咳にかかった患者さんの咳やくしゃみから菌が飛び散ってうつります。
- ★ 感染してから症状がでるまでの潜伏期は、平均7日です。
- ★ 小さな赤ちゃんでは、あまり咳は強くないのに、一時的に呼吸ができなくなったり、ケイレンを起こしたりすることもあり、警戒しなければならない病気の一つです。



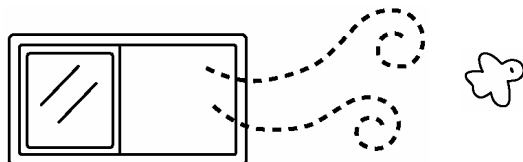
### 症状は？

- ★ はじめの1～2週間は鼻水、軽い咳など、かぜと区別が付きませんが、しだいに咳が強くなります。
- ★ 短い連続した咳が「コンコンコン」と長く続き、その後「ヒュー」と息を吸い込む発作を繰り返します。
- ★ 最後に粘っこい痰を出します。
- ★ 上記の間、顔面は紅潮し、まぶたはむくみ、首から上部に皮下出血が見られることがあります。
- ★ 乳児で幼い程、無呼吸発作を起こしやすく脳出血が起こることがあります。
- ★ 合併症がなければ発熱はありません。



## 家庭で気をつけることは？

- ★ 咳をなるべく誘発しないように、湿度を保つ。
- ★ 部屋の換気をよくしましょう。
- ★ なるべく安静にしましょう。
- ★ まわりでは絶対にタバコを吸わない。
- ★ 食べ物は、量を少なく回数を多くして、栄養価の高い物を与えましょう。
- ★ 水分をとるように心がけましょう。  
ただし、炭酸飲料はおう吐しやすいため避けましょう。
- ★ 咳が軽くなって、機嫌や食欲が普通になれば、入浴してもかまいません。



## 赤ちゃんには近づかない



小さい子どもほど症状がひどくなります。特に生後6か月以下の赤ちゃんでは、せきのために息ができなくなってしまうことがあり、入院が必要となる場合もあるようです。

## 予防は？

- ★ 生後3か月以降なるべく早く、百日咳・ジフテリア・破傷風（三種混合ワクチン）の接種をかかりつけ医に相談して受けましょう。
- ★ 予防接種スケジュール

